

(五)長期にわたってくり返し練習

先に述べたように、学校では、初めて出てきたところでその漢字を学習させるだけで、あとの反復練習というものが全くありません。それでもうわかった、というわけでしょうが、これでは、そういう漢字があるという、きわめてあいまいな単なる知識に止まって、“使える”能力にまでいくはずがありません。

初めて出てきたところで、どんなに練習してみても、まだ、それを使うところまでいけないことは、だれでも、他のことで経験しているはずで

す。漢字力も、運動能力を養うのと同じように、やはり長期にわたって、くり返し練習しなければ、ほんとうの能力にはなりません。初めて出てきたところで、朝から晩まで毎日練習を一週間くらい続けたとしても、それで終わっては確実に身につきません。

まして、テストのための一夜漬けは、永続的な能力を養うことにはなりませんから、学校でさせるべきものでは絶対にはないのです。ところが、現実には、この避けねばならないことが一般に行なわれ、テストが済めば、先生も生徒もやれやれと言った顔です。大きなまちがいと言わねばなりません。

その時だけ、一時的にできるようになっても、それだけでは、真の意味で将来のためには何にもならないのですから、そういうむだを止めて、たとえその時にはできなくても、いつかはできるようにしてやる

それが身について、それが使えるように育ててやるのが、“教育”というものでしょう。

漢字の学習は、算数や理科や社会科の学習とは、本質的に違ったものです。算数や理科などの学習は、理解するまでが問題ですが、漢字の学習は、それ以後の方が問題なのです。

わたしはかつて軍隊で射撃が得意でした。“射撃もっさり”という言葉があって、“射撃はのろまな人間がうまい”という意味ですが、とにかく、射撃練習の時がわたしは一番心が安まりました。

射撃は反復練習によってだれでも上達しますが、やはり一応の基礎知識がなくてはだめです。わたしのころは古い山型の照準でしたが、これがどういう位置になった時、引き金を引くか、から始まって、銃の持ち方、銃把の握り方、引き金の引き方、太陽がどちらかにあるか、天候気象の影響等々、理解し記憶しておかなければならないことがたくさんあります。

これらの理解、記憶は、実際体験を重ねていって初めてできるものですが、理解し記憶してからの反復練習がそれ以上に大切なのです。“一応やってみて理解できた、では次に進もう”というのは、算数や理科や社会科の学習方法です。“一応やってみて理解できた、さあ、これからが本番だ”というのが射撃の練習です。そして、漢字学習はこの射撃の練習と同類です。そして、学校の漢字教育は、この“本番”が欠けているのです。これが“ほんもの”にならない理由です。